

幹事会の報告について

○第1回 幹事会 平成28年6月17日（金）

- (1) 第1回協議会の報告について
- (2) 減災に係る取組と課題、目標達成のための取組（案）について
- (3) 阿武隈川上流の取組方針（たたき台）について
- (4) 今後の進め方について
- (5) その他（想定最大規模の浸水想定区域の公表について）

○第2回 幹事会 平成28年7月11日（月）

- (1) 阿武隈川上流の取組方針（案）について
- (2) 目標達成のための取組（案）について
- (3) 今後の進め方について
- (4) その他



※参加者は、次項のとおり

平成28年6月17日 阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策協議会 幹事会 出席表

機関名	出席者	随行者
福島市	建設部河川課 課長 加藤 憲治	
福島市	市民安全部危機管理室 室次長 菊田 友弘	
郡山市	建設交通部河川課 係長 斎藤 正樹	主任 戸田 浩
郡山市	総務部防災危機管理課 主任 鈴木 克哉	
須賀川市	生活課 課長 岡部 敬文	
二本松市	生活環境課 課長 佐藤 吉浩	
伊達市	市民生活部消防防災課 課長 桃井 浩之	
本宮市	市民部防災対策課 課長 辻本 弘月	
桑折町	総務課 課長 渡邊 美昭	
国見町	住民生活課 課長 吉田 義勝	
大玉村	住民福祉部住民生活課 安全係 主任主事 鈴木 聡	
玉川村	住民課 主任主査兼生活安全係長 大越 健一	
福島県 危機管理部	危機管理部災害対策課 課長 鈴木 秀明	主事 伊藤 草平
福島県 土木部	河川計画課 課長 小川 辰壽	
福島地方气象台	防災担当 防災管理官 吉田 薫	水害対策気象官 出口 眞一
国土交通省東北地方整備局 摺上川ダム管理所	専門職 秋林 卓	
国土交通省東北地方整備局 三春ダム管理所	管理係長 山内 尚也	
国土交通省東北地方整備局 福島河川国道事務所	河川副所長 佐藤 勝美	

平成28年7月11日 阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策協議会 幹事会 出席表

機関名	出席者	随行者
福島市	建設部河川課 課長 加藤 憲治	
福島市	市民安全部危機管理室 室次長 菊田 友弘	
郡山市	総務部防災危機管理課 防災係長 小松 信一	
須賀川市	生活課 課長 岡部 敬文	
二本松市	生活環境課 課長 佐藤 吉浩	
伊達市	市民生活部消防防災課 課長 桃井 浩之	
本宮市	市民部防災対策課 課長 辻本 弘月	
桑折町	総務課 課長 渡邊 美昭	
国見町	住民生活課 課長 吉田 義勝	
大玉村	住民福祉住民生活課 課長補佐兼生活安全係長 杉原 仁	
玉川村	住民課 課長 石井 雅夫	
福島県 危機管理部	危機管理部災害対策課 課長 鈴木 秀明	主事 伊藤 草平
福島県 土木部	河川計画課 課長 小川 辰壽	
福島地方気象台	水害対策官 出口 眞一	
国土交通省東北地方整備局 摺上川ダム管理所	専門職 秋林 卓	
国土交通省東北地方整備局 三春ダム管理所	所長 芦萱 昌弘	
国土交通省東北地方整備局 福島河川国道事務所	河川副所長 佐藤 勝美	

【河川】阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策協議会を開催しました！

平成28年4月28日
福島河川国道

1. 概要

- 阿武隈川上流で発生しうる大規模な浸水被害に備え、隣接する自治体や県、国が連携して、減災のための目標を共有し、対策を一体的かつ計画的に推進するため、4月28日に減災対策協議会を設立しました。
- 今後、「逃がす・防ぐ・取り戻す」ための取組を進め、防災意識向上や被害最小化を図るため、関係機関が5ヶ年で取組むべき内容を定めた「地域の取組方針」を8月を目標に策定します。

2. 日時／実施状況

- 日時：平成28年4月28日（金）
- 場所：コラッセ福島 4階多目的ホール
- 出席者：伊達市（市長）、国見町（副町長）、桑折町（総務課長）、福島市（市長）、二本松市（市民部長）、大玉村（村長）、本宮市（副市長）、郡山市（市長）、須賀川市（生活課長）、玉川村（村長）、福島気象台（次長）、県（次長）、三春ダム（所長）、摺上川ダム（所長）、福島河川国道事務所（所長）

議事内容

- ・(1)規約及び傍聴規定の説明
⇒異議なし、協議会設立
- ・(2)～(4)ビジョン、現状の水害リスク、減災目標の説明
⇒一括説明後に意見交換、出席委員からご発言



会場全景(コラッセ福島)

3. 主な意見・コメント等

- ・ 今年は、S61.8洪水から30年という節目の年であり、甚大な被害を振り返り、教訓を学ぶための様々な取組が重要。
- ・ 洪水時に頂けるホットラインは大変有り難い。国から頂いたりリアルタイム情報を踏まえ、避難判断の材料としたい。
- ・ 住民に伝える情報は、もっと分かりやすい言葉にする必要。
- ・ 関東・東北豪雨のような異常降雨に対しては、施設で「防ぐ」よりは、もう「逃げる」しかないと感じた。
- ・ 住民に対して、的確かつ確実な指示を出すということの必要性、難しさを痛感している。
- ・ 出水時の防災無線整備などが必要。
- ・ 阿武隈川の治水は、県人口の半分を占める約130万人もの流域人口の人命に関わるという重要性を認識すべき。
- ・ 大規模水害時の避難は、一行政区の中で決めることには限界があり、それだけでは収まりきらない。